

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 5年 4月 15日

事業所名 てくてく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動には十分なスペースを有している	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		室内は全面バリアフリーとなっている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日支援が始まる前に、その日の利用児童のことや前日などに利用した児童の支援について話し合い、欠勤だった職員とも共有している	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページにて公開しているが、SNSで通知するなどより工夫していきたい
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価については今後実施していきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンライン研修などの機会を利用している	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		良いアセスメントツールを見つけたが、まだ利用していない。今後使っていきたい
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		中心になって考える職員が考えたものを職員全員で相談し見直し、細かく決めている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童や保護者からの要望や、職員の情報などを取り入れながら決めている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は主に個別に作業能力の向上を目指して支援している。休日は調理や外出などを行い、集団での活動をメインに人との関わり方などを支援している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日に、支援にあたるスタッフ全員で打ち合わせを行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		勤務時間の関係で翌日に振り返りを行ったり、気になることがあればその都度共有し話し合っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援をする際に以前の個別の記録を確認し、その方法などを検討している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		ガイドラインに則り活動を組み合わせさせている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が出席している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校からの情報提供もあるが、急な変更の時は保護者の方から連絡をいただいたり、逆に先の予定が曖昧な時はこちらから学校に確認をしている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	緊急時の対応など主治医との面談を行い、職員全員で定期的に対応の仕方など見直している	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		能動的に情報提供を求めることは行っていないが、必要に応じて情報提供に努めたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		求められれば提供しているが、自発的には行っていないため、今後は情報提供に努めたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		コロナも落ち着いてきたため、今後は利用を考えている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時や連絡ノートで個別にその日の様子や課題について伝え、保護者からも家での様子を聞いている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		相談等があった時は事業所での対応の仕方などを伝えたりしているが、まだ不十分かと認識している。今後も支援方法や手段を考えていきたい
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コロナ禍においてはできなかったが、保護者からの意見を聴き、必要があれば開催していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	SNSを利用し、活動報告を行っている	
	35	個人情報に十分注意している	○		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	言葉だけではなく書いて伝える、絵に描いて伝えるなど、より伝わる方法を個別に考えている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		コロナ禍においては機会がなかったが、今後検討していきたい

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルは策定しているが、保護者の方には周知していない
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設立し、職員全員で対策している	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束適正化のためのマニュアルを作成し、職員間でしっかり取り組んでいるが身体拘束を行うケースが今までありません
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食物アレルギーに関しては利用開始時に保護者に伺い必要時に毎回食材の情報を伝え問題ないか確認していますが、今後は医師の指示書を出してもらうようにしていきます
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例があった時に報告書を作成し、ファイリングして共有している	